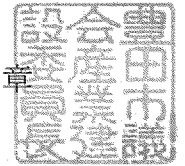


平成25年8月30日

豊田市議会議長 杉浦弘高 様

産業建設委員会
委員長 鈴木 章



委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成25年7月22日(月)～24日(水)
- 2 派遣先及び内容
22日(月)・・・京都府京都市/
清酒の普及促進に関する条例
23日(火)・・・山口県下関市/
みのりの丘ジビエセンター
(獣肉処理施設)
24日(水)・・・山口県下関市/
中心市街地活性化にぎわいプロジェクト
- 3 派遣委員
委員長 鈴木 章
副委員長 山田 主成
委員 加茂みきお 近藤 光良 佐藤 恵子
作元志津夫 根本 美春 羽根田利明
中村 孝浩
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 / 広瀬 誠、塚田恵理子

視察報告書【1】

氏名 鈴木 章

委員会名	産業建設委員会
視察日時	平成25年7月22日(月) 午前10時30分～正午
視察先・概要	京都府京都市 人口：1,474,015人 面積：827.90km ²
視察内容	清酒の普及促進に関する条例
選定理由	京都市は日本でも有数の日本酒の生産地であるが、近年清酒の消費量は、生活様式の変化や人口減少、若者の清酒離れにより年々縮小。こうした中で条例を制定することによる普及効果をねらった例は少なく、民間と行政と協力体制による取組にも着目。 貴市の地酒を効果的にPRする方法、特産物の販売促進につながる参考例として考えたため。
豊田市の現状と課題	本市では、平成24年度フルーツ酒特区を取得。豊田市特産のフルーツによる地酒の製造が比較的容易にできるようになったが、製造された物産の普及促進等の検討はまだなされていない状況にある。今後豊田市における6次産業としてフルーツ酒の製造及び販売促進の検討を求められている。
視察概要	7月22日午前10時30分から、京都市会委員会室において、市会事務局調査課 福井弘課長から『清酒の普及促進に関する条例』の議員提出議案の経緯と条例の内容について説明を受けた。また、京都市産業観光局商工部伝統産業課 奈須健一課長から、条例制定後の取組の内容について説明を受けた。
評価とその理由	『清酒の普及促進に関する条例』は、京都市内の日本酒蔵元からの要請を受け議員提出議案として上程された。本条例は日本を代表する観光地としての京都を象徴するような条例であるが、条文も簡素にまとめられた『理念条例』だといえる。 但し、地域の思いを議会が反映させたという点では大いに評価できる。
本市に反映できること	議員提出による条例制定において、特に『理念』の部分は議会の総意を集約して提出されることが望ましいと思う。 そのためには、会派間での意見を集約して進めていくことが必要と思う。
その他 (意見・課題など)	京都市会の条例制定を受けて、同内容の条例が全国10都市で制定された『波及効果』は興味深い。 また、『京都日本酒サミット2013』も企画されており、議会提案が産業の振興に寄与できていることは素晴らしいと思う。

視察報告書【2】

氏名 鈴木 章

委員会名	産業建設委員会
視察日時	平成25年7月23日(火) 午後10時00分～午後16時00分
視察先・概要	山口県下関市 人口：280,947人 面積：716.17 km ²
視察内容	みのりの丘ジビエセンター
選定理由	下関市豊田町では平成25年4月に食肉加工施設がオープン。解体、加工された商品は、農作物を荒らす動物の駆除促進と商品のブランド化の一石二鳥を狙っている。センターの運営は、下関市の食肉加工会社が行う。来年度以降の建設に向け、施設の稼働、運営について本市の参考になると考えたため。
豊田市の現状と課題	本市では、平成24年12月に、国県の補助を受けて、民設民営の獣肉活用施設を進めることに決定。平成26年度の稼働を目指し、平成25年度に施設や整備の設計、平成26年度に建設を予定している。設計に対する豊田市の支援は1/2。 地域の活性化に向けて市の支援策は、現在検討中。
視察概要	下関市議会において、議会事務局 中西局長から下関市の概要について説明を受け、農林水産振興部農林整備課 西嶋課長、下関市有害鳥獣対策室 来島室長から『みのりの丘ジビエセンター』について説明を受けた。 また、午後から下関市豊田町にある『みのりの丘ジビエセンター』を現地視察した。
評価とその理由	下関市の獣害対策は、イノシシ以上にニホンシカによる被害が増えてきている。みのりの丘ジビエセンターでの獣肉処理も当初の予定以上にシカの搬入が増えているようだ。 また、運営については公設で指定管理による運営がされており、指定管理料は520万円とのことであった。精肉会社が指定管理を受けていることもあり、施設運営の滑り出しは無難な状況である。
本市に反映できること	本市では、民設民営による獣肉処理施設の建設が進められているが、自然相手で供給が不安定な獣肉処理施設を運営するためには、事業が軌道に乗るまでは『公設』で行うように配慮するべきである。
その他 (意見・課題など)	処理加工した獣肉の需要が、生肉ではなくソーセージ・ウインナー・ハムなどの加工品が成功しているとの説明を聞き、処理施設と加工施設の連携も視野に入れた運営を計画する必要があると感じた。 さらに、追跡調査をして、獣害対策としての処理施設のあり方と、地場産業育成としての運営方法を研究する必要がある。

視察報告書【3】

氏名 鈴木 章

委員会名	産業建設委員会
視察日時	平成25年7月24日(水) 午前9時30分～午前11時30分
視察先・概要	山口県下関市 人口：280,947人 面積：716.17 km ²
視察内容	中心市街地活性化にぎわいプロジェクト
選定理由	下関市は現在、駅前の再開発事業が進行している。JR下関駅開発ビルには、本市と同様にシネマコンプレックス、立体駐車場の誘致を予定している。 豊田市における駅前開発と同様の課題を抱える貴市のプロジェクトが、本市の今後の取組の参考になると考えたため。
豊田市の現状と課題	本市では、豊田市駅前通り北地区市街地再開発準備組合が設立され、キーテナントのシネマコンプレックスの誘致も進められている。平成29年度のオープンを目指し、駅前開発が進行している最中である。回遊性の向上等にぎわいの創出に向け、市民、事業者との共働、官民連携による都心づくりをめざしている。
視察概要	昨日に引き続き、下関市議会において、都市整備部 成瀬参事から『下関市にぎわいプロジェクト』について説明を受けた。 また、説明後、下関駅前の工事予定区域を現地視察した。
評価とその理由	下関駅前については、平成18年の放火事件により駅舎が消失してしまったことが再開発のスタートとなっている。 また、これまで営業を続けてきたキーテナントであるシーモールと連動させることによって、さらににぎわいを創出させようとする方向性は取組やすいと感じた。 また、北九州市などと商圈が重なることも考慮した上でのシネマコンプレックス導入は評価できる。
本市に反映できること	本市においても、駅前北地区再開発にシネマコンプレックス導入が決定されているが、岡崎・みよし・名古屋などと商圈が交錯する中での採算性を十分考慮したうえで事業に着手する必要がある。下関市の商圈の将来性を読み取る情報の調査は参考になった。
その他 (意見・課題など)	全国の都市が、駅前の再開発に取り組んでいるが、キーテナントの撤退、人口の減少・高齢化など不安要素が多く、成功事例が少ないのが実態である。 今後も調査を続けて、豊田市駅前北地区再開発を成功させるよう議会も応援するべきである。